

2025 年版 知災研究に Challenge!

🌐 [研究内容Ⅰ] 自分の街の地形から“災害リスク地図”をつくろう

【氏名】 _____ 【調査地域】 _____

① 地形と標高をしらべよう

★ あなたの街の地形の特徴は？(例：平地、丘陵地、川の近くなど)

→ _____

★ 標高はどれくらい？海拔は？

→ _____

地図を印刷して、色をぬってみよう(標高・地形ごと) おすすめ：地理院地図を白地図で印刷しよう!

② ハザードマップを見てみよう

自治体のハザードマップを調べて、次の災害に対するリスクを書こう!

災害の種類	あなたの街の危険度(高・中・低)	理由や特徴
洪水		
地震		
土砂災害		
津波		

★ 特に気をつけたい災害は？

→ _____

一度考察してみよう:

①なぜ、その災害に気を付けたい？

②その災害への対策は何かある？実地調査／検索してみよう!

→なぜそのような対策が行われているのだろうか？

③ 過去の災害を調べよう

★ この地域では、過去にどんな災害が起きた？

→ 年／出来事（例：2019年 台風で川が氾濫）

年	出来事	被害
2016	例：熊本地震（4月）	例：熊本城が崩れた。276人が亡くなった。

★ 災害後、どんな対策がとられた？

→ _____

★

④ 災害リスク地図を作ろう（別紙・白地図にまとめ）

- 標高・地形・ハザードマップ・過去災害の情報を地図に書きこもう
- 危険な場所に印をつけて、避難ルートや避難所も記入しよう

⑤ 自分の考察と提案

💡 この地域で気になる災害リスクと、自分が考えた対策

→ _____

💬 家族や地域の人に伝えたいこと・知ってほしいこと

→ _____

★レポートにまとめる場合は、「調査理由」→「予想」→「調査方法」→「調査・結果」→「考察」→「結論」→「提案」の形でまとめてみましょう。

2025 年版 知災研究に Challenge!

 [研究内容2] 昔の災害の痕跡を地名から読み解こう!

【氏名】 _____ 【調査地域】 _____

① 地名に注目してみよう!

★ 地域にある地名をいくつかピックアップして、意味や由来を調べてみよう:

地名	気になる漢字	どんな意味?・何を表す?
(例) 蛇崩	蛇・崩	地すべりがあった崖の地名とされる
(例) 池尻	池	昔、池があったことの名残かも

地名の由来はどこで調べた?(図書館/地域の人/ネットなど)

→ _____

② 古地図と土地利用をくらべてみよう

 現在の地図と、昔の地図(できれば戦前や江戸時代)を見比べてみよう! 参考:今昔マップ

★ 昔からの地形の特徴は?

→ _____

★ 「池」「沼」「谷」など、地形由来の地名はどう変化している?

→ _____

★ 地図を印刷して、気になる場所を地図に印をつけよう!(別紙)

③ 災害との関係を考えてみよう

★ その地名や地形は、過去のどんな災害と関係があると思う？

→ _____

→ (例: 谷戸の地形→豪雨時に水が集中しやすい)

★ その地域では、実際に災害が起きた記録がある？(年/種類など)

→ _____

★ 一度考察してみよう:

①その災害の特徴・被害の内容とは？

②ハザードマップと比較してみよう!

④ 考察とまとめ

★ 「地名から読み取れる危険性」は？

→ _____

★ 自分や地域の人に伝えたい防災ポイント

→ _____

★ 気づいたことをマップにまとめてみよう!

★レポートにまとめる場合は、「調査理由」→「予想」→「調査方法」→「調査・結果」→「考察」→「結論」→「提案」の形でまとめてみましょう。

2025年版 知災研究に Challenge!

 [研究内容3] 災害時、人はなぜ逃げない? 避難行動と“心理の壁”を探る

【氏名】 _____ 【調査地域】 _____

① 避難のタイミングについて考えてみよう

★ どんな時に避難指示が出されるのか、確認しよう(大雨/土砂災害/地震 など)

★ 地元で過去に避難指示が出た事例がある? →

→ (例:〇〇年〇月の台風〇号の時)

★ 一度、「避難指示」「緊急安全確保」と、「警報」「特別警報」についてまとめてみよう

	避難情報	警報・注意報	発表基準
警戒レベル4		土砂災害警戒情報、氾濫危険情報 ※来年からは危険警報!	
警戒レベル5		特別警報	
情報の特徴			

② アンケートを使って「逃げない理由」を探ってみよう

★ 模擬アンケート(家族・友達・近所の人などに聞いてみよう)

質問例: (○をつけてもらおう)

- 避難指示が出たらすぐに避難しますか? はい いいえ
- 避難しない理由は?(複数回答可)
 - 面倒だから
 - 危険だとは思わなかった
 - ペットがいる・家を離れたくない
 - 周りの人も動いていなかった
 - 避難場所がわからない
 - その他: _____

★アンケート結果まとめ(人数、傾向など)

③ 「逃げない心理」とは？心理学の視点で考察しよう

★ どんな心のしくみが、避難をためらわせる？

心理効果・要因	内容	関係ありそうな場面
正常性バイアス		
同調圧力（社会的証明）		
損失回避バイアス		
避難先への不安		

★ 調べた情報の出典や参考資料：

→

④ 自分と地域の「避難行動力」を高めるには？

★ 避難をスムーズにするためのポイントや対策を考えよう：

- 自分がすぐに動けるように、必要なこと

→ _____

- 地域として、みんなが避難しやすくなる工夫

→ _____

★ 防災教室や自治体に提案したいアイデアがあれば書いてみよう。

★ レポートにまとめる場合は、「調査理由」→「予想」→「調査方法」→「調査・結果」→「考察」→「結論」→「提案」の形でまとめてみましょう。

2025 年版 知災研究に Challenge!

🍷 [研究内容 4] 災害報道から”心に届く言葉”を見つけよう!

【氏名】 _____ 【調査地域】 _____

① 過去の災害報道を集めてみよう

★ テレビ・新聞・ネットなどで、災害時に使われた見出しを調査してみよう（※できれば信頼性のある媒体）

災害の種類	発生時期	見出し・タイトル(抜粋)	媒体・出典
例:台風	2019年10月	「命を守る行動を」	NHK ニュース
例:地震	2011年3月	「未曾有の揺れ 東日本壊滅的」	朝日新聞

★ 気になった言葉やフレーズをピックアップしておこう!

② ことばの分析をしてみよう

★ 印象に残った見出しにはどんな特徴がある?

フレーズ	どんな印象?	どんな効果がありそう?

★ 分析して気づいたこと(キーワード/言語テクニックなど)

→ _____

③ 認知や行動との関係を考察しよう

★ こうした表現は人の心にどう作用する？

- 危機意識を高める言葉とは？

→ _____

- 逆に、不安や誤解を生みやすい表現もある？

→ _____

→ (例: あいまいな言葉 / 過剰な煽り)

★ 「メディア・リテラシー」の視点からも：

→ _____

④ まとめと提案

★ 自分ならどう伝える？「伝わる防災見出し」づくりに挑戦！

★ 災害発生時、住民に伝えたいメッセージを考えよう

→ _____

★ スローガンや標語も考えてみよう

★レポートにまとめる場合は、「調査理由」→「予想」→「調査方法」→「調査・結果」→「考察」→「結論」→「提案」の形でまとめてみましょう。

2025 年版 知災研究に Challenge!

🌀 [研究内容5] 緊急地震速報ってどう届くの? しくみを図で説明してみよう!

【氏名】 _____ 【調査地域】 _____

① 緊急地震速報とは?

★ 緊急地震速報ってどんなもの?

→ _____

★ 何のためにある?

→ _____

→ (例: 身を守る行動を素早くとるため)

② 地震速報が届くしくみを調べよう

1. 地震波の発生

- 地震が起きると、P波(初期微動) → S波(主要動)が出る
- P波は速い、S波は遅いが大きく揺れる

→ _____

2. 地震波の観測

- 気象庁などが全国の地震計でP波をキャッチ!
- データを集めて、震源や規模を推定する

→ _____

3. 揺れの予測

- S波の到達時間と揺れの強さを予測
- 揺れる前に警報を出すために計算が高速!

→ _____

4. 緊急速報の送信

- 通信回線・放送網などを通じて一斉送信
- スマホ/テレビ/ラジオに届く
- 地域に応じて速報の有無が異なる

→ _____

★ 流れを図解しよう! (矢印や番号付きモデルにするとわかりやすい)

③ 自分のスマホの設定をチェックしてみよう

★ 緊急速報ってどうやって届いてる？

- キャリア（例：docomo／au／Softbank／楽天など）は速報機能あり
- “ETWS”という技術（Earthquake and Tsunami Warning System）

これらの技術をまとめてみよう

★ 自分のスマホの「緊急速報通知」はオンになってる？

→ はい いいえ わからない

分からない場合は「設定」→「緊急通報」を確認しよう。

★ 実際の通知例や音を調べてみても OK! 「エリアメール」や NHK 緊急地震速報。

④ まとめ・気づき・提案

★ このしくみを理解して、防災にどう活かせる？

→ _____

★ 地震速報を受け取ったらどう行動すればよいか、周囲にも教えてみよう。

★ 発展：緊急地震速報がなかった時代の映像を「NHK」のアーカイブで見よう。

★ レポートにまとめる場合は、「調査理由」→「予想」→「調査方法」→「調査・結果」→「考察」→「結論」→「提案」の形でまとめてみましょう。